

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	21-080	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association Between Workplace Absenteeism and Alcohol Use Disorder From the National Survey on Drug Use and Health, 2015-2019 職場の欠勤とアルコール使用障害の関連性 「薬物の使用と健康に関する全国調査 (NSDUH) 2015年-2019年」 より		
執筆者		
Parsley IC, Dale AM, Fisher SL, Mintz CM, Hartz SM, Evanoff BA, Bierut LJ		
掲載誌		
JAMA Netw Open. 2022 Mar 1;5(3) doi: 10.1001/jamanetworkopen.2022.2954.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、職場の欠勤		35297970
要旨		
<p>目的: アルコール使用障害 (AUD) は一般的であり、疾病率の増加と関連している。AUD が職場の欠勤にどの程度影響を及ぼしているかを明らかにする。</p> <p>方法: 米国における 2015~2019 年「薬物使用と健康に関する全国調査 (NSDUH)」の代表サンプルのデータを用いて横断研究を行った。18 歳以上のフルタイム労働者を対象とし、2021 年 3 月から 9 月まで追跡された。主要アウトカムは職場の欠勤とし、過去 30 日間における病気や怪我による欠勤日数や無断欠勤の日数と定義した。AUD の重症度は DSM-V を参考にした。記述統計、有病率比、ロジスティック回帰分析を行い、AUD と職場の欠勤の関連性を検討した。解析においては、NSDUH における標本抽出法を考慮した手法を用いた。</p> <p>結果: 対象者は 110,701 名となった (男性 58,948 名 [53.2%], 女性 51,753 名 [46.8%], 黒人 12,776 名 [11.5%], ヒスパニック 18,096 名 [16.3%], 白人 69,506 名 [62.8%])。過去 1 年間の AUD の加重有病率は 9.3% (95%CI,9.0-9.5%) であり、軽度 AUD は 6.2% (95%CI,6.0-6.4%), 中等度 AUD は 1.9% (95%CI,1.7-2.0%), 重度 AUD は 1.2% (95%CI,1.1-1.3%) であった。年間の平均欠勤日数は、AUD の重症度が上がるにつれて段階的に増加した (AUD なし: 13.0 日,95%CI,12.7-13.2 日, 軽度 AUD : 17.7 日,95%CI,16.4-19.1 日, 中等度 AUD : 23.6 日, 95%CI,21.5-25.7 日, 重度 AUD : 32.3 日,95%CI,27.5-37.0 日)。AUD 患者はフルタイム労働者の 9.3% を占め、職場での欠勤報告総数の 14.1% を占めた。</p> <p>結論: この横断的研究では AUD は職場の欠勤率の増加に関連しており、AUD 患者は年間 2 億 3200 万日以上欠勤に寄与していた。これらの結果は、雇用者と政策立案者の両方に対し、AUD の予防と治療に関する投資を増加させることが経済的インセンティブに繋がることを示すものである。</p>		